

## 手記

明治の開国以来150年。一気に様変わりして先進国入りを果たした島国日本。しかし、その出自は紛れもなくアジアを母体とし、育てられた胎児の如き国。その列島の隅々にまで今なお残る文化や伝承もその証です。

大陸への出入り口であり、西の都でもあった大宰府と畿内を結ぶ中国地方は、1300年の昔から海陸共に国際色豊かな地であったと思われます。長い鎖国を経て、一転、開国に踏み出した際も、この地方の海外移民が多かったのも偶然ではない。とりわけ広島県は、ハワイ移民から始まり、北米、南米へと大勢が移住し、今なお世界中に28県人会を有する日本一の移民県となりました。その移民暮らしの辛酸を乗り越え異国に足場を築いたかと思っただけの太平洋戦

争。その中での強制収容や財産没収を受け、さらに、国内では人類史上初の被爆地となり敗戦を迎えた広島県民。辛苦のうえ戦後復興を成し遂げた今、現れた課題の一つが国内の国際化です。多くの外国人が訪れ定住し軒を並べて暮らすようになりましたが、市民との接点が増えれば増えるほど、トラブルも自然に増え、誤解や差別の種も増える恐れがあります。永年の在日差別等が厳然と残り、加えて制度疲労さえ起こしている入管制度は国際批判まで浴びていますが、広島県民ならばこそ、その中で地に足の着いた形で移民を受け入れ、市民との共感を育み、この地に真の共生社会を実現すべきです。「人種差別は魂の病だ。どんな伝染病よりも多くの人を殺す。悲劇はその治療法が手の届くところにあるのに、まだつかみとれないことだ。」とネルソ

ン・マンデラが語った通り、この病を克服するのは容易なことではないが、何もしなければ必ず潜伏し、不意に襲い掛かってくるに違いない。市民グループええじゃんは、小さな団体ではあるが、同じ市民として隣人を見捨てず寄り添うことだけでもしたいとの思いから在住外国人の①ニッポン生活トラブル相談、②学習・就労支援、③トラブル体験会、市民交流の3事業を中心に18年間活動を続けてきましたが、これからは、一般社団法人として組織を強化し、外国人と日本人の専門家の力も借りて、多言語対応の広報と相談体制を強化したいと思います(LINE相談等)。幸いにも、三菱財団×中央共同募金会の助成も頂けたので、目下のコロナ禍で孤立を深める在住外国人の生活支援と居場所づくりも急ぎたいと思います。最後になりましたが、この度の受

賞は、誠に名誉であり、会員の励みともなります。

関係者一同心より感謝申し上げます。